

# 富山県立魚津工業高等学校 同窓会だより

第 28 号

平成30年9月15日発行

富山県立魚津工業高等学校

同 窓 会

事務局 〒937-0001 魚津市浜経田3338

魚津工業高等学校内

TEL 0765(22)2577 FAX 0765(22)2578

URL <http://www.tym.ed.jp/sc324/>Eメール [shinkirou@uozu-th.tym.ed.jp](mailto:shinkirou@uozu-th.tym.ed.jp)

## 働き方改革より、 生き方改革を！

同窓会長 米澤 賢太郎

同窓会の会員の皆様には、日頃より本校教育活動の振興と充実のために、温かいご理解とご支援を賜り、心より御礼申し上げます。母校魚津工業高校も創校以来56年の歴史を重ね、同窓会員は11,000名を超え、新川地区唯一の工業高校として、産業社会の発展と技術革新に貢献してきました。

皆様は、在学中は資格試験や検定、各コンテスト、そして部活動に汗を流してこられたことと思いますが、今はどうでしょうか？

今、日本は人口減少に悩んでいますが、地球規模では人口が爆発的に増えていきます。世界では餓死が後を絶たない一方、日本では1,800万トンの食料が廃棄されています。こうした状況にある世界が自分の立っている舞台だと認識した上で、自らの仕事の意味を考えてほしいものです。

多様性に関して、私たちの世代には反省すべきことがあります。我々の世代の多くは、日本が経済的に豊

かになる中で、よい学校に行ってもよい会社に入ると同じ「生き方の物差し」を持つていました。団結して強力なパワーを発揮した反面、多様性が失われ、今になって社会にひずみを生んでいるように思います。これからは多様性を生かした社会を作るべきだと考えます。

働き方改革が国の主要政策となつていきます。ただ、大切な根っこは働き方を改善することだけでなく、多様な価値観に基づいて、それぞれがどのような生き方をするのか、ということではないでしょうか。

「よい会社」に入ることが目的ではないのです。その会社で何をやるのが重要なのです。一つの価値観、生き方に固執するのではなく、柔軟に対応しながら、社会に貢献することが求められているのです。

今年の同窓会総会及び懇親会は、11月10日(土)スカイホテル魚津において開催いたします。是非、お誘い合わせの上、多くの参加をお

願いたします。最後に会員各位の益々のご活躍を期待しますと共に、今後とも母校並びに同窓会に対しまして一層のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



経田海岸からの夕日



# これからの工業教育

校長 吉田 幸市

同窓会の皆様には、日頃より本校の教育活動にご支援とご協力を賜り、深く感謝申し上げます。4月に校長として着任して半年が経とうとしています。また、慣れないところもありますが、新川地区にある唯一の工業高校として本校が担う、「地域産業の発展を支える工業人の育成」との役割の達成を目指し努めていきたいと思っております。

少し本校の様子を報告させていただきます。部活動においては、今年度も大変活発に行われ、すばらしい成果を残しています。特に、アーチエリー部は県高校総体で優勝し、6月に北信越大会、8月に全国高校総体に出場し、団体戦で9位、個人戦では5位に入賞いたしました。ラグビー部も春季大会7人制で優勝し、7月に全国大会に出場しました。県高校総体で優勝し、平成27年の第95回全国高校選手権に出場して以来の3度目の花園出場を果たしてほしいと思っております。また、野球部はこの夏の富山県大会において久々にベスト8入りを果たしました。準々決勝においても接戦となっており、今後の活躍が期待されます。文化部においても、現在「ものづくりコンテスト」や「ロボコン競技大会」など各種大会に向けて意欲的に準備しており、吉報が待たれます。さて、本校の学習環境ですが、未整備であったテニスコートがこの春に完成し、

心待ちにしていた生徒たちの歓声を聞くことができました。また、昨年度から計画されていた普通教室のエアコン設置についても、後援会からの力強いご協力の下、3・4階の工事が完了しました。各方面のご尽力で、なんとか7月の猛暑に間に合わせる事ができました。生徒、教職員ともに本当に感謝しております。来年度には2階の教室への設置も計画しており、全学年がこれまで以上に快適な環境で学習に臨むことができます。

また、高校教育を取り巻く環境ですが平成34年(元号は変わりますが)から新しい学習指導要領での教育活動が行われることとなります。今回の改訂では、学ぶことにより「何が出来るようになるのか」に重点が置かれています。工業教育においても「ものづくりを通して、地域や社会の健全で持続的な発展を担う職業人の育成」に向け、学習内容を充実させる方向が示されています。本校ではこれまで以上に「ものづくりを通じた人づくり(基礎・基本の技術・技能をしっかりと身に付けさせ、基本的な生活習慣や社会的マナーを備えた人材の育成)」に努めていきたいと思えます。

おわりに、同窓会会員の皆様の健康と益々のご活躍を祈念すると共に、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。



# 関東支部結成20周年記念 関東支部が出来た秘話

元関東支部長 山本 進 二  
(第4回 電気科・昭和41年3月卒)

今年の関東支部の同窓会総会は記念すべき20回目になりました。思い出しますと関東支部発足のきっかけは22年前にありました。

今年が2018年ですから1996年(平成8年)に電気科5回生の担任を務められた米島秀次先生(富山工業高校、高岡工芸高校等の元校長先生)が上京されたのを機会に先生とのかかわりが有った方々に集まっていた飲み会を開催しました。

私は第4回生電気科ですが、この時に集まった第5回生電気科の池原進君、秋山佳明君、飯沢路規君と意気投合し同級生と飲む機会はあるが、先輩・後輩等とふれあう機会が無いのは関東に同窓会が無いからだということ、関東に同窓会支部を作ろうということが酒の勢いで決まったのが事の始まりでした。

支部の創設を行うに当たり魚津の同窓会本部に支部を勝手に作っても良いものか、関東地区にどの程度の卒業生が居るのか、卒業生の住所把握はどのようになっているのか等を相談させていただき、平成10年5月28日に14名の同窓生が集まって同窓会関東支部発起人会を開催しました。

当日は全国高等学校校長会に出席されていた当時の魚津工業高校 長谷川校長にも多忙の中、時間を割いていただき来賓として出席していただき会を盛り上げていただきました。その後、その年の10月に関東支部同窓会準

備会を開催し、支部長は第1回卒業生の中西武さんを選出しました。

同窓会本部からは関東支部設立準備補助金として3万円の支援を受けて関東地域に居住する約400名の方々に往復ハガキでご案内を差し上げ平成11年5月に33名の方々の参加をいただき第1回関東支部同窓会を開催することが出来ました。

当初の関東支部同窓会は全国高等学校校長会の開催に合わせて5月末に開催し、その時の校長先生に来賓として参加いただくと同時に魚津の同窓会本部から同窓会長にも参加いただくようになり、回数を重ねることに賑やかになってきました。

特に同窓生である谷林正明元参議院議員(第3回工業化学科卒)には第1回から参加いただき支部を盛り上げていただきました。

関東地域に就職する同窓生は昭和38年と昭和50年の期間は各学年10名以上いました。特に団塊世代の4回生と6回生は30数名の卒業生が関東地域に就職していましたが、昭和50年代に入ると少子化の影響が10名に達しないようになり、平成に入ると更に減少し、数名になってしまいました。

最近の同窓会関東支部総会への参加者は20名程度となっていますが、この会が同窓生の関東における憩いの場として継続することを支部創設の切っ掛けを作った者として望んでいます。

卒業して早や30年経ちますが、その間に校舎の改築が進み、各科の実習棟も一新されました。新しい学習環境の下、今後も多く生徒が、この魚工で学び、巣立っていくことを大変嬉しく思います。

私は、高校卒業後、大阪で一年間研修を受け、最初に配属されたのは、黒部川の水力発電所を管轄する黒部川電力所(宇奈月)でした。その後、富山市や京都、奈良での勤務を経て、一昨年から、再び黒部川水力センター(旧黒部川電力所)で働いています。

関西電力は、昭和26年の電気事業再編に伴い、9電力の1つとして発足しました。その際、各河川の水力発電がそれまでの地域に送電していたかで帰属を決める「潮流主義」が採られ、戦前から関西系の資本で開発された関西方面へ送電していた黒部川は、関西電力に帰属されました。それ以降、黒部川は関西電力によって開発され、「黒部の太陽」で有名な黒部川第四発電所(通称「くろよん」)の他、新黒部川第三・第二発電所、音沢発電所など、黒部川の豊富な水量と落差を活かし、現在では、水系全体で約90万kWという原子力発電所1台分に相当する発電を行っています。

電力会社では、お客さまへ安定した電気をお届けするため、これまでは、発電から送電、変電、配電までを一貫して行ってきましたが、東日本大震災ならびにその後の需給ひっ迫等により、電力システム改革が行われることになりました。

## 黒部川との共存共栄

関西電力株式会社  
職場同窓会ズ  
紹介シリーズ

第26回 電気科 鷹田 康一 (S63年3月卒)



この改革の大きな柱は、①広域系統運用の拡大、②小売および発電の全面自由化、③法的分離の方式による送配電部門の中立性の一層の確保の3点からなっています。再来年の4月には、③の送配電事業の法的分離として、各電力会社において分社化が実施されます。(①と②は実施済み)ただ、分社化となりましても、電気の安定供給という点では、これまでどおり地域のライフラインを扱う事業者としての役割は何ら変わるものではありません。

当社関連事業として、「トロッコ電車」の愛称で親しまれている黒部峡谷鉄道、立山黒部アルペンルートでの「関電トローリバス」(来年4月に「電気バス」に変更)、

格安スマホでお馴染みの「mineo(マイネオ)」がありますのでご紹介させていただきます。

最後に同窓会会員の皆様のご活躍とご健勝を心よりお祈り申し上げます。

まずはこの度、同窓会だよりの職場同窓会紹介シリーズの原稿の依頼をいただいたことに感謝申し上げます。

当時自分が学んでいた化学工業科が情報環境科と名称変更されたことに驚きと一抹の寂しさを感じる反面、母校の明るい未来を感じる自分がいることに、本校の卒業生であるということであらためて再認識させられたような気がします。

私は化学工業科を卒業後、大阪経済法科大学法学部、法律学科に進学しました。化学工業科で日々いろんな薬品をいじっていた者が何故に法学部なのかという理由についての詳細はお話いたしません、今振り返って二文字で表せと言われれば「挑戦」に他ならないのではないかと思います。

兎にも角にも大学では工業高校で培ったスキルとはまた分野が違い、工業高校時代以上に毎日毎日「挑戦」(別名、勉強)でした。

中学校時代から続けていたバレーボールを高校に行っても続けてい

たことをはじめ、厳しいながらも思いやりのある指導をしてくれたたくさんの先生方、部活動の先輩方のおかげもあり、なんとか留年することもなく、卒業できたこと本当にうれしく思います。

大学卒業後は家業に入る前に一般企業への就職も考え、就職活動を行い、数社から内定もいただいておりますが、家庭の事情もあり、卒業後はすぐに家業に入りました。

社会人になっても「挑戦」は変わりません。

## 挑 戦

中正商店  
職場同窓会ズ  
紹介シリーズ

第26回 化学工業科 野澤 恒 (S63年3月卒)



就業し始めるころは今のように入社コンヤスマホが当たり前ではありませんでしたが、仕事を通して使えなければいけない、使わなければ仕事にならないことが多々でてくるようになりました。

しかし、どこかにアナログな自分も確保しておかないと、いざという時に何か困るような危機感も持っています。

最後に、母校の更なる発展、同窓会の皆様方のご健勝とご活躍をお祈りいたします。

# 待望のテニスコート完成!

待望のテニスコートが機械科実習棟横に完成しました。

平成30年3月26日に、総工費約3700万円をかけての工事が完了し、4月2日の竣工式以降使用可能となりました。

テニスコートの総面積は1219平方メートルで、高いフェンス内に2面のハードコートが設置されました。完成したテニスコートは、様々な技術が発揮しやすい作りとなっており、体育の授業での有効活用と、テニス部の更なる活躍が期待されます。

そもそも本校のテニスコートは、平成16年までは存在していましたが、平成17年に現管理教室棟がその跡地に建築されたことに伴い、解体されてしまいました。それ以来、授業や部活動で大変不便な思いをしてきましたが、同窓会長をはじめとする本校関係者が県に強く要望し続けていただいたおかげで、ようやく昨年度の県予算に組み込まれ、着工に至りました。

テニスコートが完成したことにより、教室棟、実習棟と続いた一連の改築工事とその周辺工事が全て完了し、平成30年度を真新しい気持ちで迎えることができました。このような素晴らしい環境で勤務できることに感謝し、また、多くの生徒が充実した高校生活を送れることを願っています。



始球式 4月3日



練習がんばっています



片貝川土手より



緑と茶色のコートとラストが美しい  
(カラーでお見せできないのが残念)



北信越大会・インターハイ出場メンバー



アーチェリー部

第27回北信越高等学校アーチェリー選手権  
**積年の思い、優勝！**



黒部市中ノ口緑地公園運動広場 会場設営準備



アーチェリー部顧問 神子田 浩司

6月16日、17日、長野県木島平やまびこの丘公園アーチェリー競技会場にて表記題の大会が行われた。これまで、本校の男子選手は富山県高校総合体育大会では7年連続23回目の団体優勝を成し遂げており、インターハイに出場するなど成果をあげてきた。今年度も岐阜県高山市で開催されるインターハイに男子団体が出場し、同時に北信越高校体育大会出場権も獲得した。

北信越高校体育大会には毎年出場してきたが、無念なるかな、男子団体不屈の5連覇を達成した平成13年以降、優勝から遠ざかってしまっていた。北信越各県1位と2位の精鋭選手が参加するため、射的の得点スコアもハイレベルな闘いをいられる。今年度の本校選手は、各県大会における例年の選手の個々の得点スコアを上回っており、期待されているメンバーであった。その巡ってきた千載一遇のチャンスをものにして優勝できたのは、選手の日々の努力やチームワークのたまものであり、そして、保護者の方々やアーチェリー協会の方々の協力応援など関係各位のご支援があつてこそ成し遂げられた栄光であろう。心より感謝申し上げたい。

アーチェリー競技は、4月5日11月はほとんど天候変化の激しい外の設営練習場や会場にて実施され、例えば今年度の猛暑の気象条件のなかで体調管理をしながら部員・選手は粘り強く活動しなければならぬ。なかでも70Mから90Mの距離を往復する矢取りという反復動作にはかなりの体力・精神力を要するスポーツといえよう。かの五輪メダリスト山本博氏がその著書『ゼロから始めるアーチェリー』(実業之日本社発行)で「アーチェリーとは静的スポーツであり心の格闘技でもある」と述べ、さらに「自分に適した弓具を用いて、とても単純な技術を、力強い体力によって安定させ、強い精神力によって期待と不安をコントロールして、厳密な体調管理によって常に万全を期す」と語っている。

さて、本校アーチェリー部練習については、校内のピロティとグラウンド海側の射的場、毎回会場を部員たちが自主設営して行われる黒部市中ノ口緑地公園運動広場と黒部市健康スポーツラザなどで行っている。

心技体の調和が過酷なまでに要求され、日々同じ所作練習のなかに反復される微妙な調整と試行錯誤、創造と工夫、あたかも日本刀を鍛錬して最高峰・究極の一品を世に生み出す職人気質のなんたるかを選手に感じ取っているのは私だけだろうか。一心不乱の一点を狙い射的に集中、ゾーンに入った選手には、はたして双眼鏡スコープで見ない限り、とてもじゃないが確認できない小さな筋の大きさに見えてくるのだろうか。これからも、本校部員が、楽しみながら自分の精神と技を錬磨し、誠実に部活動に参加していきけるよう応援していただければ幸いです。

本年度インターハイには、3J徳本君、3M2立石君、2M2西本君、2E室谷君が選手として出場した。男子予選ラウンド(個人戦)については、徳本君が18人中、2位で決勝ラウンドへ進出し、決勝トーナメントでは準々決勝まで進んで5位入賞を果たした。男子予選ラウンド(団体戦)については47チーム中、本校選手の総合得点で4位となり、その勢いで決勝トーナメントへ臨んだところ、1回戦で準優勝チームに進撃をばまれ、惜しくも9位という結果だった。

今後ともアーチェリー部活動へのご理解とご協力、更なるご支援を賜りますようお願い申し上げます。

# 平成29年度 同窓会総会

平成29年度魚津工業高校同窓会総会が、同年10月21日(土)午後6時よりスカイホテル魚津にて開催されました。

米澤会長(第3回機械科卒)の開会挨拶に引き続き、西脇校長、藤田関東支部長(第2回電気科卒)がそれぞれ挨拶されました。永年勤続教職員表彰では20年勤続の能澤均先生、10年勤続の杉本日出夫先生、高橋英司先生、平野宏和先生に感謝状および記念品が贈呈されました。

続いて議題に入り、平成28年度会務並びに事業報告、同窓会一般会計・同事業会計・魚工展積立会計、全国大会特別会計・同窓会部活動助成費特別会計の決算並びに監査報告、平成29年度事業並びに会務計画(案)、一般会計予算(案)等が審議され、いずれも満場一致で承認されました。

総会終了後、会員31名、教職員15名、計46名の参加を得て、宮島常任幹事(第9回機械科卒)の司会進行にて懇親会が催されました。

会長、校長の挨拶後、長島顧問(第2回機械科卒)による乾杯の音頭にて開会され、和やかで明るい雰囲気の中でお互いの近況報告や情報交



平成29年度 総会

換そして高校時代の思い出話に花が咲きました。その折に、関東支部から参加された藤田支部長と太田副支部長(第5回電気科卒)が第19回関東支部総会の報告(開催日・平成29年7月1日(土)、場所・帝国ホテル)をされ、参加者一同興味深く聞き入りました。

最後に、校歌を参加者一同で声高らかに斉唱し、二川副会長(第11回化学工学科卒)の閉会の挨拶で大盛況の内に懇親会を終え、気の合う仲間同士で夜の繁華街へ繰り出しました。

# 生徒の進路希望と求人状況

【就職】この春の調査で、県内企業の6割が増産や業容拡大、働き方改革に対応するため2019年春に採用人数を「増やす」と回答しました。一方、現状の人員に「不足感がある」と答えた企業も7割近くあり、深刻な人手不足の実態が明らかになってきました。また、少子化の影響を受け、学生優位の売り手市場が続く見通しです。

その中でも、企業側は優秀な人材を求めていて、一定の水準に達しなければ採用しないという企業もあり、高校生採用については依然として厳しい状況があります。

8月上旬での県内求人受付企業数は31社、求人数は550名で、昨年と比較すると、現時点ですでに企業数・求人数とも約1割増加しています。それに対して就職希望者は全体の約74%にあたる115名で、有効求人倍率は約4.8倍になっています。

就職希望者は8月中旬には、ほぼ応募先を決定します。生徒達は夏休み中も履歴書の作成や作文・面接練習に励み、試験に備えています。

○ 求人企業数・求人数		
県内	319社(290社)	550名(485名)
県外	230社(228社)	290名(298名)
○ 就職希望者		
	115名	全体比74%
( )	110名	全体比75%
県内	113名(102名)	
県外	2名( 8名)	
○ 進学希望者		
40名	全体比26%(37名)	全体比25%
学大	18名( 8名)	
短大	5名( 2名)	
能開大	7名(10名)	
公共職訓	0名( 1名)	
専門	10名(16名)	
未定	0名( 0名)	
※データは8月8日現在、( )は昨年同期		
	今年度卒業予定者数	155名
	昨年度卒業生徒数	148名



面接試験対策セミナー

たいという者が多い中、運動部系でさらに高いレベルで活躍したいという生徒もいます。進学希望の生徒たちには、何を学ぶためにその学校に進学するのかを明確にさせ、さらに、将来どんな仕事をしたのかをイメージさせながら進学先を選ぶよう指導しています。生徒たちが志望校に合格し、それぞれが思い描いた学校生活を送ることを願っています。

本校を巣立っていく生徒たちは、同窓会の諸先輩方にお世話になることと存じます。つきましては、今後とも厳しくも温かいご指導をよろしくお願い致します。

# 第29回海外技術見学会に参加して

3 J 赤田 圭 優

私たちは第31回工業技術発表大会・ミラコン2018に「魚津産原料からの油の抽出と活用」というテーマで参加しました。また、大会後に行われた第29回海外技術見学会に参加し台湾に行きました。

私は台湾で多くのことに触れ、多くのことを学ぶことができました。その中で最も印象に残っているのは台湾の首都の台北市にある、松山高級工農職業学校の生徒の皆さんと交流したことです。台湾の生徒の皆さんは私たちに歌やダンスを披露してくださいました。それらは、とても迫力のある素晴らしいものでした。他にも台湾の皆さんはとても友好的で言葉は通じないけれど、日本のことがとても好きなのが感じられました。私も海外だからと敬遠せずにもっと多くの事を知ることが大切だと思います。

次に印象に残っているのは、台北101という高さ509.2メートルもある高層ビルに行ったことです。台北101から見る景色は素晴らしく、特に見えて興味を惹かれたものは建造物の形です。私は過去に1度東京スカイツ

リーを訪れたことがありますが、スカイツリーからの景色は台北101とは全く別物でした。文化や歴史の違いで建造物の外見が変化することに驚きました。

今回の海外研修旅行の5日間ではたくさんの人と出会い、とても良い経験ができました。初めて言葉の通じない人と対話を行い、表情や態度がとても大切なことだと感じました。今回台湾に行った思い出や経験は、一生の宝となると思います。



松山高級工農学校にて

# 富山県高等学校ロボット競技大会 2連覇達成！ 全国制覇を目指して 機械工学部

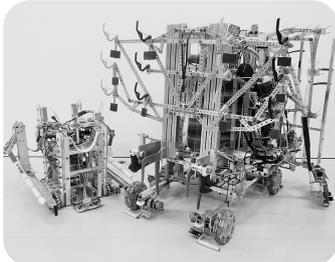
ロボット競技大会とは、毎年4月にルールが発表され、その課題をこなすロボットを生徒が製作し、操縦して得点等を競う大会です。昨年度は9月10日に富山県大会が不二越工業高校で、10月22日に全国大会が秋田県立武道館で開催されました。

昨年度の競技内容は、「秋田竿灯まつり」がモチーフとなり、竿燈に見立てた竿にアイテムを取り付けて運ぶというもので、3分以内に獲得した点数を競うものでした。前年度に続き、難易度の高い内容でした。

県大会は5校17チームが参加しました。予選は各チーム2回ずつ競技をし、高い方の得点で順位を付け、上位8チームが決勝トーナメントへ進出するという方式でした。各校とも苦戦し、満点は出ませんでした。本校のチームは操縦者の冷静な操作と補助者の正確な判断により、夢幻「孔雀」チームが予選を1位通過することができました。決勝トーナメントでは、大きなミスがあり、ハラハラする場面もありましたが、運良く勝ち上がることができ、その後は落ち着いて操作をし、県大会2連覇を果たすことができました。

全国大会では、128チームが参加し、予選の上位32チームが2次予選に進み、更に上位8チームでトーナメントを行う方式でした。大会当日は、ロボットの整備や練習コートでの試走を何度も行い、対戦に備えましたが、いつも通りの動きができ、全体の2位で通過することができました。2次予選では焦りと緊張からか、いつも通りの動きができず、想定外のミスにより敗退してしまいました。練習では2回に1回は満点が出せるロボットに改良していただけに、上位入賞を果たせず惜しまれる結果となりました。

ロボット製作の過程では、生徒が思いもよらないアイデアを出し、それらを実現させたり、自ら改良を加えていたりするなど、生徒の成長を強く感じることができました。今年度は山口県で全国大会が開催されますが、「全国制覇」を目標に頑張りますので、今後とも活動へのご理解ご協力をいただきますようお願い申し上げます。



# 母 校 だ よ り

## 教職員の人事異動

(平成30年3・4月)

平成29年度末の人事異動により、次の方々の異動がありました。

ご退職・ご転出されました先生方には、これまでのご指導に深く感謝し、一層のご健勝とご活躍をお祈り致します。

ご転入の先生方には、本校に新鮮な息吹を吹き込んでいただきたく、ご活躍を期待申し上げます。

### ◎ご退職(役職や教科)・今年度

- 西脇 清史(校長)・退職
- 岩田 昭志(情報環境)・退職
- 杉本 日出夫(保健体育再任用)・退職

### ◎ご転出(役職や教科)・転出先

- 大澤 克司(教頭・理科)・泊高校
- 八幡 久康(数学)・新川みどり野高校
- 金山 奈緒子(電気)・富山工業高校
- 加藤 正(電気)・砺波工業高校
- 黒澤 勝範(事務)・上市高校

### ◎ご転入(役職や教科)・前任校

- 吉田 幸市(校長)・魚津高校
- 井川 忠司(教頭・情報環境)・富山工業高校
- 高木 義春(情報環境)・富山工業高校
- 御園 勉(数学)・魚津高校
- 城 樹伸(保健体育)・桜井高校
- 山崎 将平(電気)・ふるさと養護学校
- 林 拓人(理科)・新川みどり野高校
- 澤井 和則(事務)・富山県教育企画課

## 部活動の記録

<p>★アーチエリート部</p> <p>県春季大会 男子個人 1位 徳本(3) J</p> <p>県高校総体 男子個人 1位 徳本(3) J</p> <p>男子団体 3位 室谷(2) E</p> <p>徳本(3) J・立石(3) M 2・室谷(2) E</p>	<p>北信越高校総体 男子個人 1位 徳本(3) J</p> <p>男子団体 1位 徳本(3) J</p> <p>徳本(3) J・立石(3) M 2・室谷(2) E</p>	<p>全国高校総体 男子個人 5位 徳本(3) J</p> <p>男子団体 9位 徳本(3) J</p>	<p>★ラグビー部</p> <p>春季大会 準優勝</p> <p>7人制富山県大会 優勝</p> <p>北信越大会 優勝</p> <p>7人制全国大会 出場</p>	<p>★野球部</p> <p>全国高校野球選手権富山大会 ベスト8</p>	<p>★剣道部</p> <p>魚津市剣道大会 優勝</p> <p>男子個人 優勝 八倉巻(2) E</p> <p>女子個人 2位 田中(2) J</p> <p>3位 藤(2) J</p> <p>3位 加藤(2) J</p> <p>3位 平田(1) M 2</p>	<p>★水泳競技</p> <p>県高校総体 50m自由形 3位 山本(3) M 2</p> <p>200m個人メドレー 3位 山本(3) M 2</p> <p>北信越大会 出場 3位 山本(3) M 2</p>	<p>★吹奏楽部</p> <p>富山県吹奏楽コンクール 高等学校B部門 銀賞</p>	<p>★電気工学部</p> <p>2018 One-1 GP SUZUKA K V B I K E チャレンジ全国大会 6位・8位</p>	<p>★高校生ものづくりコンテスト富山県大会 最優秀賞 平井(3) M 1</p> <p>★旋盤作業部門</p>
--	--	--	--	---------------------------------------	---	---	--	---	--

平成30年度  
**総会のご案内**

とき 平成30年11月10日(土) 午後6時～

ところ スカイホテル魚津  
※懇親会 午後6時30分～  
会費 5,000円

企業世話係の方々を通じてチケット販売を致しております。ぜひ、皆さん誘いあってご参加下さい。

2018年12月23日(日・祝)

第46回 **吹奏楽部定期演奏会**

I. クラシカルステージ  
II. ポップスステージ  
III. ステージドリル

13:30～ 開場  
14:00～ 開演

新川文化ホール 前売り 500円